

経営比較分析表（令和6年度決算）

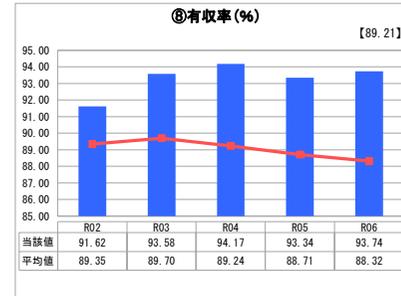
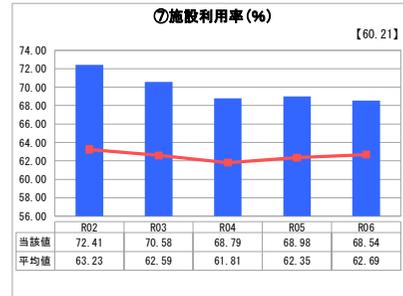
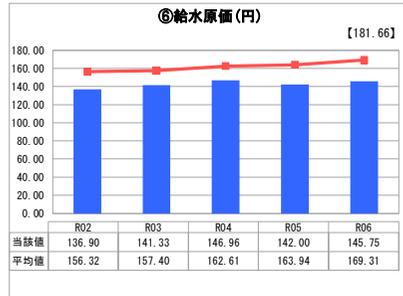
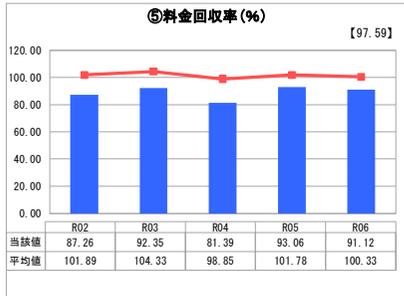
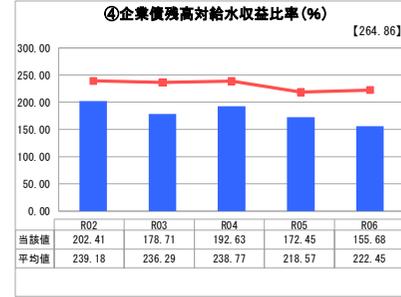
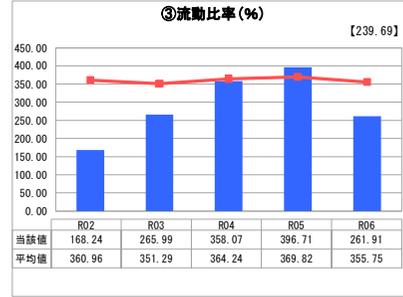
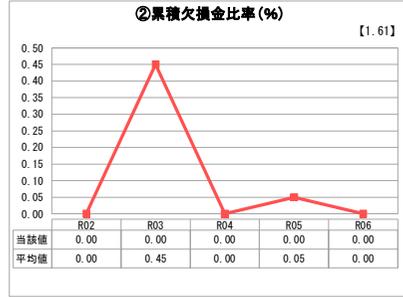
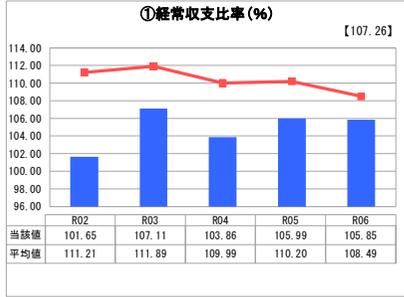
埼玉県 戸田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	80.19	100.00	1,749	

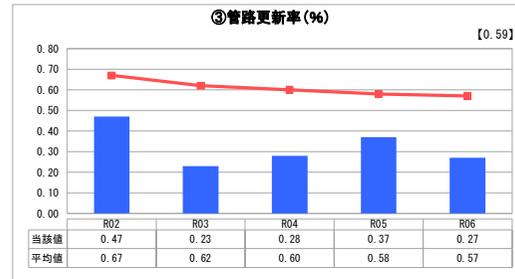
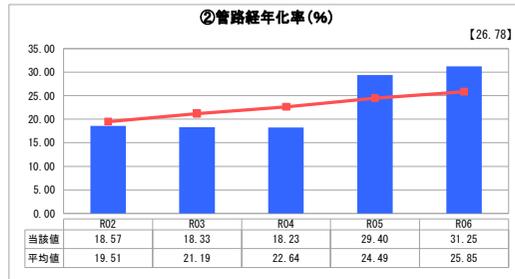
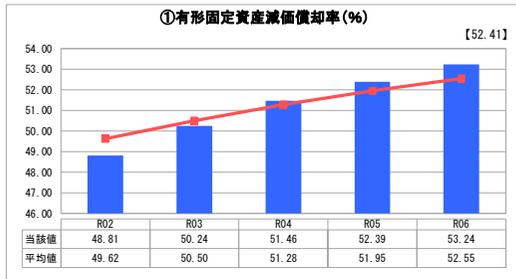
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
142,070	18.19	7,810.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
142,182	18.19	7,816.49

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
本市は100%を超えているため、単年度収支は黒字となっています。営業費用増加により前年度より僅かに下回りました。

②累積欠損金比率
欠損金は発生しておらず、良好な状態にあります。

③流動比率
短期的な支払能力を示す値です。短期的債務に対する支払能力は改善傾向にありますが、令和6年度は減少し全国平均は上回っていますが、類似平均を大きく下回っています。安全圏ではありませんが、今後、浄水場等の更新により多額の財源が必要となるため注視していきます。

④企業債残高対給水収益比率
平成19年度から平成28年度までの10年間にわたる企業債の借入抑制の結果、類似団体平均より低い値となっています。

⑤料金回収率
本市は100%を下回っており、給水にかかる費用が料金収入で賄えておりません。類似団体平均と比較しても低く、給水収益以外の分担収入等に依存している状況が課題となっています。

⑥給水原価
本市は、市域が狭く、平坦な地形で、建物が密集しているため、設備をコンパクトかつ効率的に利用できることから、他団体と比較して給水原価が低い傾向です。

⑦施設利用率
類似団体平均よりも高い値であり、施設規模は適切であると考えられます。

⑧有収率
類似団体平均値よりも高い数値を維持しています。今年度の数値は前年度を上回り、老朽管更新を計画的に進めている結果と考えられます。今後も高い数値の維持を目指します。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体平均と全国平均よりも高い上昇傾向にあり、水道管や浄水場施設等の老朽化が進行しています。

②管路経年率
管路経年率は、法定耐用年数を超えた管路(水道管)の割合を示す指標です。前年度よりも数値が高くなっており、法定耐用年数を超えた管路が増加している事が分かります。なお、緊急時には適宜、管路修繕を実施しているため、法定耐用年数を超えたことで直ちに設備が使用不可能になることはありません。

③管路更新率
管路更新率は、全ての管路延長に対し、当該年度に更新した管路延長の割合を示す指標です。全国平均、類似団体平均よりも下回っており、更新ペースを増加させるためには、更新事業量増とそれを支える財源の確保及び水道事業の経営に与える影響を踏まえた分析が必要です。今後も計画的な管路更新を進めていきます。

全体総括

本市水道事業の経営状況は、経常収支比率が100%を上回っており、健全経営を維持していますが、依然として料金回収率が低く、給水に係る費用を料金収入で賄えない状況です。

健全経営を維持するため、施設の統廃合などを含めた投資の効率化や、DXの活用等効率的な業務手法の導入などにより、事業経営を計画的かつ効率的に実施していきます。

令和7年度に料金改定したことにより、収益の増加が見込まれますが、今後、給水収益が減少傾向となることが予測される一方で、老朽化施設の更新や耐震化への投資など、多額の資金需要が想定されるため、長期展望に立った事業運営に取り組めます。

経営比較分析表（令和6年度決算）

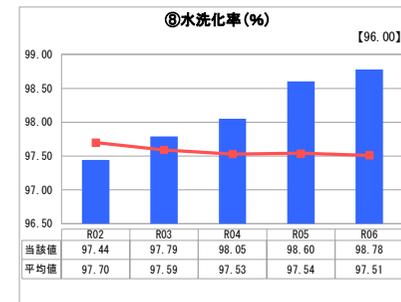
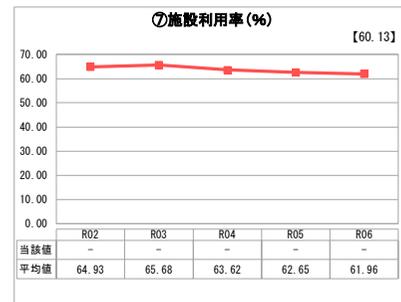
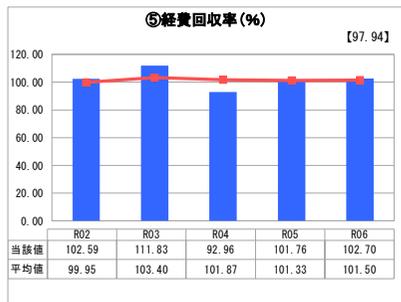
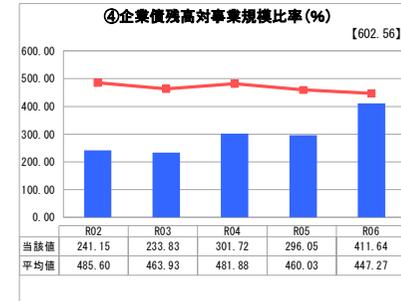
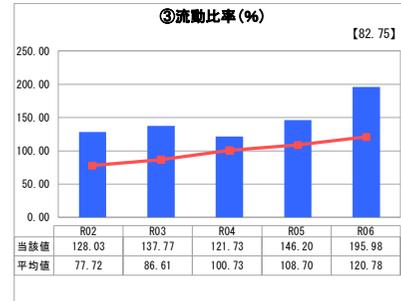
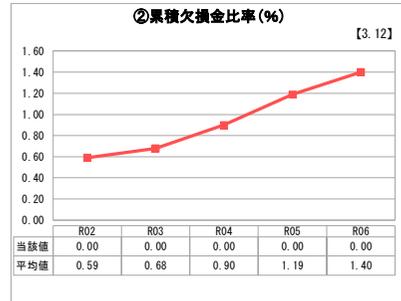
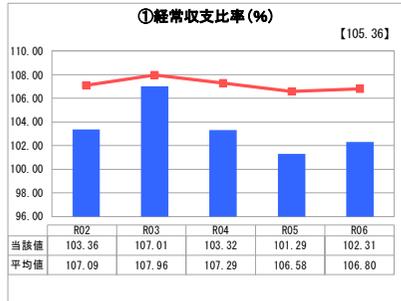
埼玉県 戸田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料(円)
-	52.68	95.83	95.13	1,023

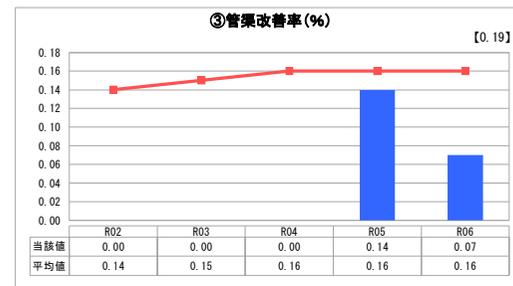
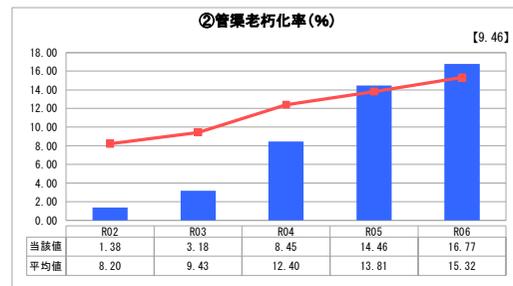
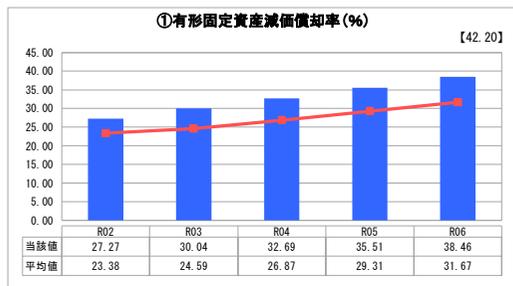
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
142,070	18.19	7,810.34
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
136,147	12.65	10,762.61

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
収益的収支の均衡を示す指標です。比率が100%を超えているため単年度収支は黒字となっています。
- ② 累積欠損金比率
欠損金は発生しておらず良好な状態にあります。
- ③ 流動比率
短期的な支払能力を示す値です。短期的債務に対する支払能力は改善傾向にあり、全国平均及び類似団体と比較して高い水準にあります。引き続き健全な経営を行ってまいります。
- ④ 企業債残高対事業規模比率
下水道施設を建設する際の借入残高の規模と下水道使用料収入との均衡を表す指標です。類似団体より低い水準にありますが、前年度と比較して大幅に増加したため、今後も合理的な投資による適正な債務残高の維持や、使用料収入の確保に努める必要があります。
- ⑤ 経費回収率
下水道使用料改定を実施した平成29年度以降、基本料金減免を実施した令和4年度を除き、経費回収率は100%を超え、使用料収入で汚水処理費を賄うことができているが、近年では低い水準となっているため課題となっています。
- ⑥ 汚水処理原価
本市は市域が狭く平坦な地形で、建物が密集しているため、設備をコンパクトかつ効率的に利用できることから、他団体と比較して汚水処理原価が低い傾向です。
- ⑦ 施設利用率
本市は下水処理場を保有していないため、本指標は該当しません。
- ⑧ 水洗化率
令和3年度より再び上昇傾向にありますが、下水道を整備する際の接続啓発により注力し、今後も100%を目指し継続促進に取り組みます。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
年々上昇しており、下水道管渠やポンプ場施設等の老朽化が進行しています。老朽化した管渠の改善更新を効率的に実施するため、管渠調査による老朽化状況の把握に努めます。
- ② 管渠老朽化率
令和5年度より類似団体と比較して高い値になっており、今後も耐用年数を超過した管渠が増加していく見込みです。そのため、計画的な点検箇所を選定並びにDX等による効率的な点検の実施により、適切に状況を確認し、更新又は修繕を実施していく必要があります。なお、点検及び必要に応じた修繕の実施により、耐用年数を超過した管渠でも安全に使用することができます。
- ③ 管渠改善率
老朽管の状態を把握し、効率的かつ効果的に更新・改善を進めます。

全体総括

基本料金減免を実施した令和4年度を除き、経費回収率は100%を超え、健全経営を維持していますが、現状のままでは100%を下回る可能性があることから、改善に向けた検討が必要となります。また、令和5年度以降、耐用年数を超過した管渠が増加してきたことにより、令和6年度も管渠の更新を実施しました。今後も、未整備地区の整備と更新事業が重なることにより必要となる多額の財源を確保しつつ、計画的な点検の実施並びに効率的な修繕又は更新により、老朽化に併せた対応ができるよう進めてまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。